

- 問1 北海道のほぼ中央に位置する内陸部の気候について述べた文として、最も適切なものはどれですか。この地域では、海岸部と比較して夏と冬の気温差が大きく、冬の気温が氷点下になるという特徴が見られます。(2025年 沖縄県公立入試 類似)
1. 海洋性気候 2. 瀬戸内の気候 3. 内陸性気候 4. 南西諸島の気候
-
- 問2 北海道の北東側に位置するオホーツク海から、冬に沿岸へ押し寄せ、解ける際に多くの栄養分を海に供給する氷の塊を何というか。(2025年 青森県公立入試 類似)
1. 寒流 2. 季節風 3. 流水 4. 親潮
-
- 問3 北海道の県庁所在地である札幌市の気候の特徴を説明した文として、統計データに基づき正しく述べたものを次の中から選びなさい。(2022年 熊本県公立入試 類似)
1. 1年を通じて気温の変化が小さく、1月の平均気温も15度を上回り、夏に極めて多い降水量が見られる。 2. 夏は非常に高温になる一方で、冬の降水量が極端に少なく、年間降水量が1000mmを下回る乾燥した気候である。 3. 1月の平均気温は5度前後であり、夏には梅雨の影響で雨が非常に多いが、冬は乾燥して晴天が続く。 4. 1月の平均気温が氷点下の約マイナス5度まで下がり、年間の降水量は各月100mmから150mm程度で推移する。
-
- 問4 十勝平野における大規模な畑作では、同じ耕地において数年周期で栽培する作物を変える工夫がなされています。このような栽培方法を取り入れている理由として、最も適切な説明はどれですか。(2024年 滋賀県公立入試 類似)
1. 冬の積雪期間を有効に活用して、同じ土地から一年のうちに二度の収穫を行い、農家の所得を増やすため 2. 政府による米の生産調整に対応するため、もともと水田だった土地を畑に作り変えて別の作物を栽培するため 3. 特定の作物を連続して栽培することで起こる連作障害を防ぎ、土地が持つ生産力である地力を維持するため 4. 冷害による被害を最小限に抑えるため、寒さに強い作物だけを特定の広い区画に集めて単一栽培するため
-
- 問5 北海道の知床(斜里町など)では、1980年の知床横断道路の開通などをきっかけに、1990年代には観光客数が180万人に達するほど急増しました。これにともなう環境の変化と、その対策として行われた取り組みの説明として最も適切なものはどれですか。(2022年 栃木県公立入試 類似)
1. 世界自然遺産への登録を維持するために、2007年以降は一切の観光利用を禁止し、研究者以外の立ち入りを厳格に制限する方針に転換した。 2. 観光客の増加によって自然環境が損なわれることが懸念されたため、1999年から自動車の乗り入れ規制を開始し、保全と観光の両立を目指すエコツーリズムのガイドラインを策定した。 3. 1990年代の急激な観光客増加に対応するため、自然保護よりも利便性を優先し、知床半島の奥地まで自由に自動車で移動できる制度を強化した。 4. 観光客が減少したことで地域経済が衰退したため、2005年に世界自然遺産に登録されたことを機に、新たな大型道路を建設して観光客の呼び戻しを図った。
-
- 問6 北海道の日本海側から太平洋側にかけての地形断面図を分析したとき、中央部の険しい山地を挟んで西側と東側に位置する平野の組み合わせとして正しいものはどれですか。(2021年 岩手県公立入試 類似)
1. 西側に根釧台地、東側に十勝平野 2. 西側に石狩平野、東側に根釧台地 3. 西側に十勝平野、東側に石狩平野 4. 西側に石狩平野、東側に十勝平野
-
- 問7 旭川市周辺において、昭和から平成にかけて田畑や空き地が住宅地や発電所へと変化した現象について、その背景にある社会的な要因として最も適切な説明はどれですか。(2016年 京都府公立入試 類似)
1. 交通網の衰退により、郊外からの人口流出が激しくなり、土地が放置されたため。 2. 都市化の進展に伴い、居住空間の確保やエネルギー供給の必要性が高まったため。 3. 食料自給率を向上させるために、都市部の建物を壊して農地を拡大する政策がとられたため。 4. 自然環境を保護するために、市街地の面積を昭和初期の規模にまで縮小させたため。
-
- 問8 北海道東部の根釧台地に位置し、夏に濃霧が発生しやすい涼やかな気候を生かして大規模な酪農が行われており、農業産出額の大部分を乳用牛が占めている自治体はどれか。(2025年 青森県公立入試 類似)
1. 新篠津村 2. 北見市 3. 別海町 4. 夕張市
-
- 問9 札幌において、冬(12月～2月)の降水量が東京などの太平洋側の都市に比べて多くなる理由を、地理的な背景から説明したものとして正しいものはどれですか。(2021年 茨城県公立入試 類似)
1. シベリア高気圧から吹き出す乾燥した風が、太平洋上で水分を蓄えて戻ってくるため。 2. 冬に湿った南東の季節風が吹き込み、雪を降らせるため。 3. 暖流である対馬海流から蒸発した水蒸気が、北東の季節風によって運ばれるため。 4. 冬に湿った北西の季節風が吹き込み、雪を降らせるため。
-
- 問10 日本の都道府県の配置において、最北端に位置する北海道は、新潟県や鹿児島県といった他の地域と比較して特有の自然環境を有しています。北海道の大部分を占める気候帯の背景や仕組みについて述べた文として、正しいものを選びなさい。(2024年 徳島県公立入試 類似)
1. 周囲を海に囲まれているため、本州の山梨県などの内陸部よりも夏は暑い。 2. 日本海を流れる暖流の影響を強く受けるため、冬でも比較的温暖である。 3. 季節風の影響で一年中雨や雪が多く、夏と冬の気温差がほとんどない。 4. 高緯度に位置するため冬の寒さが厳しく、年間の気温差が非常に大きい。
-
- 問11 北海道において、近年、冬季の外国人宿泊者数が夏季の宿泊者数を上回るほどに急増している背景として、最も適切な理由はどれですか。(2018年 山形県公立入試 類似)
1. 冬季の農閑期を利用して、外国人観光客を対象とした大規模な農作業体験ツアーが全道各地で定着したため。 2. 質の高い雪(パウダースノー)を求めて来日するスキー客の増加や、雪まつりなどの冬特有の観光資源が海外で高く評価されているため。 3. 夏季の北海道は梅雨の影響で天候が不安定になることが多く、天候の安定した冬季に観光客が集中するようになったため。 4. 冬季は夏季に比べて航空運賃や宿泊代金が大幅に安くなるよう、国と地方自治体が連携して大規模な割引政策を継続しているため。
-
- 問12 北海道の知床半島のすぐ東側に位置し、択捉島、色丹島、歯舞群島とともに、日本固有の領土でありながら現在はロシアによって法的根拠なく占拠されている島を何というか。(2019年 岡山県公立入試 類似)
1. 色丹島 2. 択捉島 3. 国後島 4. 歯舞群島

答え合わせ・解説

問1	答え 3 内陸性気候	北海道の中央部は海から離れているため、比熱の小さい陸地の影響を強く受けます。水に比べて陸地は温まりやすく冷めやすいため、夏は気温が上がりやすく、冬は極めて寒冷になる内陸特有の気候が形成されます。冬には氷点下まで気温が下がり、積雪も見られるのが大きな特徴です。
問2	答え 3 流氷	冬にシベリア方面からオホーツク海を南下してくる氷の塊であり、北海道の沿岸に接岸する現象である。アムール川などからの豊富な栄養分を含んでおり、豊かな生態系を支える要因となっている。親潮（千島海流）は寒流の一種であり、海流そのものを指すため、氷の塊である流氷とは異なる。
問3	答え 4 1月の平均気温が氷点下の約マイナス5度まで下がり、年間の降水量は各月100mmから150mm程度で推移する。	札幌市の気候は、北国特有の寒冷な性質を持っています。気温の面では、1月の平均気温がマイナス5度付近まで低下する厳しい寒さが特徴です。降水量の面では、本州以南で見られるような梅雨や台風による極端な降水量の増加が少なく、年間を通じて各月100mmから150mm程度と、比較的安定した推移を見せるのが冷帯（亜寒帯）に属する地域の傾向です。
問4	答え 3 特定の作物を連続して栽培することで起こる連作障害を防ぎ、土地が持つ生産力である地力を維持するため	同じ耕地で同じ種類の作物を繰り返し栽培すると、土壌の養分バランスが崩れたり、特定の病害虫が発生しやすくなったりする「連作障害」が発生します。十勝平野では、てん菜、小麦、ジャガイモ、豆類を組み合わせて順番に栽培することで、この障害を回避し、地力を維持しながら効率的な農業経営を行っています。一年に二回収穫するのは二毛作や二期作、水田から畑への変更は転作の説明であり、十勝平野の輪作の目的とは異なります。
問5	答え 2 観光客の増加によって自然環境が損なわれることが懸念されたため、1999年から自動車の乗り入れ規制を開始し、保全と観光の両立を目指すエコツーリズムのガイドラインを策定した。	知床では、道路の開通によってアクセスが向上したことで観光客が急増し、貴重な生態系や景観が損なわれることが課題となりました。これを受け、2005年の世界自然遺産登録の前後から、特定の時期のマイカー規制やエコツーリズムの推進など、自然を「守る」と「利用する」ことを両立させる持続可能な取り組みが続けられています。
問6	答え 4 西側に石狩平野、東側に十勝平野	北海道の中央部にある大雪山系などの山地を境にして、西側（日本海側）には石狩川の下流に広がる石狩平野があり、東側（太平洋側）には大規模な畑作が行われている十勝平野が位置しています。
問7	答え 2 都市化の進展に伴い、居住空間の確保やエネルギー供給の必要性が高まったため。	旭川市における土地利用の変化は、日本の多くの地方都市で見られた都市化のプロセスを反映しています。昭和後期から平成にかけて、都市の規模が拡大する中で、かつて農業に使われていた土地や未利用地が、人々の生活の場（住宅地）や社会インフラ（発電所など）へと転換されました。これにより、地域の経済活動や住民の利便性が向上した一方で、周辺の自然景観や農地が減少するという側面も持っています。
問8	答え 3 別海町	根釧台地は寒流である親潮の影響で夏でも気温が上がりにくく、稲作や畑作が難しいため、広大な土地と牧草を利用した酪農が発達しました。選択肢の北見市は玉ねぎなどの畑作、新篠津村は石狩平野での稲作が中心であり、夕張市はメロン栽培などで知られています。
問9	答え 4 冬に湿った北西の季節風が吹き込み、雪を降らせるため。	日本の冬はシベリア高気圧から北西の季節風が吹きます。この風が日本海を渡る際に水蒸気を蓄え、北海道の日本海側に位置する札幌などに雪をもたらします。そのため、冬の時期に晴天が多く降水量が少ない太平洋側の都市と比較して、札幌では冬の降水量（降雪量）が多くなるという因果関係が生じます。
問10	答え 4 高緯度に位置するため冬の寒さが厳しく、年間の気温差が非常に大きい。	北海道が属する亜寒帯（冷帯）は、赤道から離れた高緯度地域に特有の気候です。太陽からのエネルギーが少ないため冬は極めて寒冷になりますが、夏は日照時間が長くなるため一定の気温まで上昇します。その結果、夏と冬の気温の差が他の温帯地域よりも顕著に現れるというメカニズムを持っています。
問11	答え 2 質の高い雪（パウダースノー）を求めて来日するスキー客の増加や、雪まつりなどの冬特有の観光資源が海外で高く評価されているため。	北海道の冬季観光は、海外から「JAPOW（Japan Powder Snow）」と称賛される質の高い雪を目的としたスキー・スノーボード客によって牽引されています。加えて、さっぽろ雪まつりなどの冬のイベントも国際的な認知度が高まっており、これらが2012年から2016年にかけての宿泊者数急増の主な要因となりました。一方、北海道には本州のような梅雨がほとんどないため、天候を理由とした夏季の敬遠は当てはまりません。
問12	答え 3 国後島	国後島は、北海道の知床半島の東側に位置する島です。択捉島、色丹島、歯舞群島と合わせて北方領土と呼ばれます。北方領土の中で択捉島に次いで2番目に大きな面積を持ち、根室半島の先に位置する歯舞群島や色丹島などととも、一度も外国の領土になったことがない日本固有の領土ですが、第二次世界大戦の終結直後に当時のソ連によって占拠されました。